

No.1532

市
報

かみのやま

4

2021.4月号

また来たくなるまち ずっと居たいまち ～クアオルト かみのやま～



雅な姿に魅せられて

3月1日・3日から、榎下宿山田屋、上山城で「かみのやまの雛祭り」が開催されました。訪れた小関伊織さん・瑛大さん(弁天)は「人形それぞれの目の細さが違って面白」「お雛様が着ている着物がすごくきれい」と目を輝かせました。

また、上山城では、宮川中学校の生徒による健康標語の展示や「floRe: (ふらり)」(かみのやま桜フェス運営団体)による啓翁桜や県産の花を使ったフラワーアート展なども開催。訪れた人々に一足早い春を届けました。

※市ホームページ「まちの話題」でも紹介しています。上山城の展示は4月4日(日)まで開催中。



新年度にあたって 上山市長 横戸 長兵衛

世界的に感染拡大が続いている新型コロナウイルス感染症は、本市においても多くの感染が確認されているほか、基幹産業である観光業や飲食業を中心とし、市内経済へ大きな影響を及ぼしています。市としては、これまで13回にわたる予算措置を講じ、感染防止、緊急経済対策を実施してきました。感染収束に至るまで、感染防止の徹底と地域経済の回復を両立させ、市民の命と暮らしを守るため、引き続き尽力していきます。

このコロナ禍においても明るい話題がありました。JOCジュニアオリンピックカップ・全国中学生陸上競技大会2020において、南中学校男

子陸上部が男子四種競技・男子4×100メートルリレーの2部門で優勝という栄冠をふるさとに持ち帰るとともに、男子四種競技優勝者は「山新3P賞」の進歩賞にも輝きました。

また、新型コロナウイルス感染症の対応を進めるにあたって、新たな発展の道筋も見えてきています。東京一極集中が見直され、企業のテレワークやワーケーションが進む中、全国的に「健康経営」の重要性・注目度が高まっています。それにともなあって、本市が全国に先駆けて取り組んできた「上山型温泉クアオルト事業」への注目も高まっています。「心と体がうるおうまち」を目指

したこれまでの取組をさらに磨き上げ、健康・観光・環境の3つの柱に基づく事業を多角的に実施していきます。

本市の喫緊の課題である人口減少対策においても、転機を迎えています。かみのやま温泉駅東側にある工場跡地をはじめとした低未利用地の民間活用について、定住につながる道筋が見えてきています。現在進めている駅前広場の整備と合わせて、駅東側の開発を本市の将来の発展につながる重要プロジェクトとして、官民で連携し着実に進めていきます。

そして、新型コロナウイルス感染症という世界規模の危機を大きな変革のチャンスと捉え、国・

▽結婚・子育て支援…子育て支援のシンボルとして、市総合子どもセンター「めんごりあ」の魅力をさらに高めていくとともに、誰もが結婚や妊娠の希望を叶え、子育て世代が定住し、安心して子どもを産み育てられる環境の充